

<様式>

学 校 名	山形市立第一小学校 山形市本町一丁目 5 番 24 号 Tel622-0651 FAX633-9301	校 長	斎藤 隆史
		研究主任	津藤 美加
研 究 主 題	くらしと学びをつくる子どもの育成（4年次）		
研 究 主 題 設 定 の 理 由	<p>本校では、学校教育目標として「体・徳・共・知・美の調和のとれた人間性と、確かな学力を身につけた児童を育成する」ことを掲げ「違いを認め 切磋琢磨しながら 誰もが成長できる学校」をめざして教育活動に取り組んでいる。</p> <p>くらしと学び、は常に密接に関わり合っており、わたしたちが教育課程全体をマネジメントしていくことが子ども達の「くらしと学びをつくる力」に繋がっていくと考え、研究主題を設定した。</p> <p>昨年度は、「子どもたちがより主体的に学んでいくことができるような教育課程、日々の教材研究と授業づくり」を進めていくことに取り組んだ。昨年度末の研究全体会で、子どもたちのくらしの土台となるものは、行事等を含めた日々の授業であり、くらしと学びの往還によって子どもたちは育っていくことを確認し、今年度も引き続き「くらしと学びをつくる子どもの育成」を研究主題とすることで、「よりよいくらし」を子どもたち自身でつくることできるよう、個別最適な学びと協働的な学びを主軸として、子どもたちの主体性をより高めていきたいと考える。</p>		
研 究 の 重 点	<p>【個別最適な学びと協働的な学びの往還を大切にし、よりよいくらしと学びをつくる】</p> <p>今年度も、教育課程全般を研究対象とし、子どもがより主体的に学び、よりよいくらしをつくっていきけるよう、昨年度の研究や子どもの姿を受け、学校教育の重点目標を設定した。</p> <p>○自分で考える 教科の見方・考え方を自ら働かせる子ども</p> <p>○自分から思いやる 相手の気持ちを考え、思いやりを行動で表すことができる子ども</p> <p>○一歩ふみ出す よりよいくらしを意識して自力で計画・実行・発信する子ども</p> <p>これらの資質・能力を育成していくために、教職員全体でカリキュラムマネジメント・授業改善に取り組んでいく。授業や行事、特別活動など学校生活全体で、「くらし」と「学び」が相互に関わり合いながら高まっていくことができるよう、定期的な振り返りや評価、子どもの様子から見取り、検証していく。</p>		

研究の内容・方法

(1) 学びをつくる →個別最適な学びと協働的な学びの往還

○日々の授業を大切に

子どもの学校生活の大部分を占めるのは授業である。子どもは授業から、教科の内容だけでなく様々な学びを得てくらしへとつなげている。

様々な個人差をもつ子ども達を理解したうえで、単元を見通した授業づくりをしていく。単元目標やつきたい力、ゴールの姿を子ども達と共有する。ゴールへの道筋を子どもが自ら選択できるようにすることで、子ども自身が学習を自己調整することができるように仕組む。

○単元内自由進度学習を子どもの実態に合わせて年間計画に位置付ける

自分に最適な学びを自力で計画・実行できる子どもを育成していくために、単元内自由進度学習に取り組む。順序選択学習・課題選択学習・課題設定学習の考え方から単元構成を考え、個で追究したり、他者と協働したりと、子どもたちが自己調整しながら学習を進めていくことができるようにする。

○多様な他者との協働を大切に

学級の友達、異学年の児童だけでなく、地域学校協働活動（いちサポ）を活用し地域の人や専門家などとの関わりを大切にしていく。生活科や総合的な学習の時間「かがやき研究」では、様々な人と関わり合うことで、異なる考えを知り、よりよい学びへとつなげる。

(2) くらしをつくる →カリキュラムマネジメントを常に意識して

○ねらいを定める

年間の教育課程における行事の位置づけから、子ども達に付けたい力、そのための活動を焦点化する。めあてを子どもと共有し、子どもたちが考え自分たちで動くことができるよう時間を確保する。

- ・委員会活動、縦割り班活動
- ・異学年で取り組む活動（自然の家、花笠、運動会など）を大切にしていく。

○年間の教育課程を見通し、学級経営案の形式を再検討する。

研究の計画

4月20日	研究部にて今年度の研究について検討
5月2日	研究全体会① 今年度の研究について
5月中	学級カリキュラムの作成 事前研究会
6月	学級カリキュラム確認
7月12日	授業研究会①
7月28日	学級経営に係る研修
夏休み中	NRTテスト、全国学力・学習調査分析 →アクションプランに生かす
9月～12月	各学級における授業研究 特別支援授業研、言語通級授業研
10月24日	授業研究会②
12月6日	授業研究会③
1月	研究全体会② 今年度のまとめに向けて
2月	研究実践集作成
3月	研究全体会③ 来年度に向けて

○授業力向上のために、全担任が年間カリキュラムの中に計画的に位置づけ、年1回以上の授業研を行う。

○外部講師の派遣を要請し、全員で授業について学ぶ授業研究会を年3回行う。